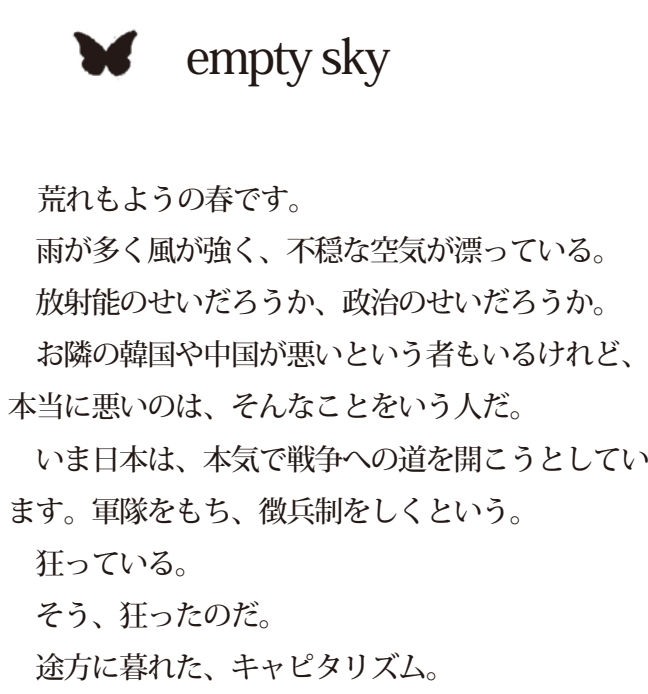




彼らは若者たちにこういうだろう。
 良い知らせと、悪い知らせがある。
 悪い知らせは、徴兵制がしかれたから、君たちは
 軍隊に入り、戦場で戦わなければならない。

良い知らせは、平和主義者は戦わなくてもよいことだ。かわりに東京電力の福島第一原子力発電所で自然と生命を護るために働いてもらう。どっちを選んでよい。君たちは自由だ……

ものをいえないマスコミ。

政府はオリンピックまでに原発事故をコントロールするつもりだろう。そのために2018年には徴兵制を施行するだろう。そのためには2017年に憲法改定の国民投票を行うだろう。

この2年間にネオコンや自民党が勝利したら、若者たちはまちがいなく徴兵されることになる。

春眠のまどろみに稲妻が光り、雷鳴が轟く。

私たちはいま、大いなる歴史的岐路に立っている。

手もとに一冊の小冊子があります。「ふくしま文庫」から発行する最初のニュースレター、KEOLA NEWS 創刊号。

創刊特集として、この冬かけて書いた哲学詩『empty sky』を小冊子にしました。
初版は 300 部限定の手作り製本です。
とてもかわいい本になりました。
クリキンディの一滴のような、
「ふくしま文庫」の小さな芽。

クリキンディは南アメリカの先住民に伝わるお話の主人公です。

森が燃えていました
森の生きものたちは
われ先にと
逃げて
いきました
でもクリキンディという名の
ハチドリだけは
いったりきたり
くちばしで水のしずくを一滴ずつ運んで
火の上に落としていきます
動物たちがそれを見て
「そんなことをして
いったい何になるんだ」
とって笑います
クリキンディは
こう答えました
「私は、私にできることをしているだけ」
(『ハチドリのひとしずく』辻信一監修、光文社)

地球が燃えています。
なかでも日本列島は烈しく炎上中。
そして福島で、辺野古で、世界中で、多くの人々が、クリキンディのように働いています。
できてたホヤホヤの KOLA NEWS 創刊号『empty sky』をご希望の方に 500 円でお送りいたします。
(お茶と別送、送料込です)

正木高志



やわらかな雨に、野山の草木がいつせいに冬の眠りからさめて、日々、新芽が萌えだしてきます。私たちのからだも冬から春へ。調子を整えるのが難しいですね。みなさまいかがお過ごしでしょうか。そんなときだから、野草をたくさんいただいて、しっかりとデトックス。ヨモギを塩ゆでて味噌汁にいれたり、フキノトウの落みそ、ノカンゾウの酢みそあえもおいしいですね。

野草を摘みながら、福島のことを想いました。菜の花が咲いても、摘んでいたことができず、土手の土筆も、小川の貝も、よるこんで食べることができない。そのことが、どれほどひどい、生活の、平和の、生命の破壊であることか。

福島ではすでに百人をこえる子供が小児甲状腺癌を発症しています。四年間で百人です。チエルノバイリを遥かにしのぐ勢いです。それでも国は原発事故の放射能との因果関係を認めようともしません。反対に子供たちの検診をさまたげ、現実には、蓋をして、人目から隠してしまおうとしています。

子供たちを放置しておくわけにはいきません。そんななかで『六ヶ所村ラブソディ』の鎌仲ひとみ監督の新作映画、『小さき声のカノン』の上映がはじまりました。フクシマとチエルノバイリで、子供を被ばくからまもうと奮闘するお母さんたちを描いたドキュメンタリー映画です。

「三週間の保養で、被ばくして蓄積された放射
性物質が半減する」と語るベラルーシの医師の言
葉を引用して、鎌仲さんは「一年に一ヶ月間保養
に出るだけで、子供たちの体調は劇的に改善され
ます。保養文化を根づかせ、継続し、育てること
が大切です」と語っておられます。

アンナプルナ農園の、さらに山奥の廃村で昨年
からはじまった「ふくしま文庫」をつくる作業も
これから再開です。水道を引いたり、お風呂をつ
くったり、屋根の葺き替えや、家の床、壁、それ
にトイレ・・。なんとか8月には福島から子供た
ちを受け入れることができるよう準備したいと
思っています。秋には韓国のフリースクールの子
供たちにも来てもらいたいと願っているのです
が、一体どうなることでしょう？

この村には泉があり、川がながれはじめる場所。
春の陽光をあびて、段々畑のわきを流れる小川が
きらめき、クレソンの緑はふわふわのクッション。
剪定のおわった茶畑にも、キミドリの新緑が萌え
だしてきました。

春の土用があけると、いよいよお茶摘みです。
おいしいお茶が育ちますように。

よいお茶をお届けすることができそうです。
世界中の人々が、お茶をゆつくりのむことがで
きますように。

(チコ)



●食養生リトリート

春から夏に移る土用に入りました。固まる陽のエネルギーから広がる陰のエネルギーに変化する時です。お茶は剪定も終わり、新芽が元気に育っています。田んぼは先日苗床に種まきをしてこれから芽を出す頃です。5月中旬のお茶の収穫に焦点を合わせ徐々に体調を整えていこうと思います。

昨年末、僕は胆管結石で3日間でしたが緊急入院しました。それがきっかけで年明けからラビが指揮をとり3ヶ月間の食養生リトリートが始まりました。

食事は土鍋で炊いたあずき入り玄米の一汁一菜食。早朝に起きて瞑想し、体をほぐし、読書をし、朝食。午前と午後には少しの作務。夕方に瞑想し、入浴を済ませ、晩御飯をいただく。夜は体を調整し早々に寝床につく。

食の改めは文字通り、悔い改めであり、意識の改めそのものです。これからの大きなテーマにしていこうと思います。

●まっこり酵母パンづくり

一汁一菜の暮らしには必要ないのですが、時には大好きなパンも食べたくになります。自分でも作れるようになりたいと思い、ラビに相談し代表的なパンの作り方を教えてもらいました。

使う道具と置き場所、オーブンの使い方、パン生地をこねるコツ、焼けた後の注意点、発酵菌にするラビ秘伝の「まっこり酵母」の使い方などを聞き、冷蔵庫の扉に貼ってあったラビの手書きのレシピを確認しながら作ってみました。

食養生では朝もしっかり玄米を食べるとされているので、考慮して「玄米がゆ」を小麦の6割ほど混ぜた「玄米ゴパン」を基本とすることに決めました。

作る時に唯一想像できないのは酵母の発酵力です。生きている「まっこり酵母」だけにその発酵の具合は毎回まちまちです。うまく発酵せずには失敗もしながらなんとかできるようなってからは去年大収穫だったカボチャを混ぜた「玄米あずきカボチャパン」にしたり、「玄米あず

きニンジンパン」にアレンジしたりしました。その味は家族にも好評でした。そして先日、はじめてライ麦パンも作ってみました。キャラウェイシードという香料がライ麦の香りと最高に合うですね。次回はいよいよ念願のカンパニーに挑戦しようと思ってます。



●つながった世界

去年の11月26日に音楽系出版社から僕の本が発売されました。タイトルは『つながった世界〜僕のじゃがたら物語』です。「じゃがたら」というのは僕が80年代に10年間活動していた音楽のバンド名です。その音楽に影響を受けたこだまけひろさんというフリーの編集者の方からラブコールをもらい、彼のガイドにまかせ共著として綴られた自伝的な内容です。

「じゃがたら」の音楽に関する話を中心に、郷里の富山県魚津市で過ごした幼少期から高校生の頃まで、東京に出てからの音楽中心の都市生活、そして911から311以降、現在のグラウンディングの方向に生き方をシフトしていくまでの経緯をたどっています。

山暮らしをするようになってから、自分がかつて制作した音楽、特に歌詞の意味するところに新たに気づかされることがたくさん起きました。それは農園に来てから学んだことが大きく影響しています。都市の大量消費生活の中では見えなかったことや方向違いなどがたくさん出てきました。過去を振り返れば勘違いがいっぱいで恥ずかしくなります。それらへの反省と改めです。そして、これから生まれてくる音楽（創造と調和）を楽しみにしています。

(オト)

(オト)



表紙と裏表紙の写真
はラビが撮影した。

2014年11月26日
P-Vine出版から発売
2200円（税込価格）



「着地」

昔々、インドのラジギールという場所に家族で滞在していた旅の時のこと。ある時父はひどい病気になりふた月ほど寝込んでいました。

そんな病床の父に3歳だった私は庭のブランコに乗るから押してくれとせがんだそうです。押してあげようと立ち上がっても、歩くことができなかった父は、娘があわれに思えて泣きながら「ごめん、ごめん」とあやまりました。娘は「父さん、お花のいっぱい咲いているところにいこう!」と言ったそうです。そんなふうに旅を終えたと聞きました。

それから、３９年の月日が流れました。２０１５年、春の庭には、スノードロップすずらん、水仙、クロッカス、ミツバツツジに雪柳、日陰のエビネ、毎日のように花々が庭を賑わせています。摘み取ったお花は母屋の神棚（祭壇）や台所やテーブルに飾ります。八重桜やシャクナゲ、ツツジなどはいずみ村のお花をちょっと拝借して祭壇に捧げます。庭のお花で祭壇を飾ることは一日の中でも安らぎのひと時なのです。



ラジギールの「お花が咲いているところに
いこう」はもう実現しているなあと、庭の花々
を見て思うこの春です。

変容の時、羽化の時、いろいろありますが、私にとって野草摘みや台所で料理すること、土に触ることは呼吸を整えるように大切な生活の息吹です。

地球意識に目覚めたコミュニティはどんなふう
に誕生するのでしょうか。水の声聞きながら今は羽化宙、そして誕生の時。

(Ravi)

